自由民権関係碑

自由民権思想は、明治政府の中央集権的藩閥体制に対して、全国的に澎湃（ほうはい）として起こった。それらは国会開設運動、地租改正、不平等条約改正へと進展した。喜多方地方でも、明治十一年（一八七八）民権結社「愛身社」が結成され、ついで「先憂党」（同十三年）、「自由党会津部」（同十四年）と発展した。

明治十五年、県内自由党の撲滅を使命として赴任した三島通庸県令は、着任早々、会津三方道路開削を企画、会津六郡連合会の決議を無視して強引に工事に着手した。これに対し住民は、権利回復訴訟同盟を組織して、不法な工事の中止を求めた。しかし反対する指導者を次々逮捕し、この釈放を求める農民との間に、十一月二十八日夜、喜多方事件が発生し、多数の逮捕者を出した。

この喜多方事件を契機として、全国各地の民権活動は武力闘争化するようになった。

所在地　新道　出雲神社内

瓜生岩子生誕の地

社会福祉の先駆者として知られる瓜生岩子（またはイワ）は、文政十二年（一八二九）、小田付村の油商渡辺利左衛門の長女として生まれた。九歳の時父に死別、その上火災にあって、熱塩の母の実家に身を寄せ、瓜生姓を名乗る。

三十四歳で夫に死別し、一男三女の子どもを熱塩に預けて本格的に貧民救済事業に献身する。戊辰戦争では、敵味方の別なく負傷者の手当をし、藩士子女のため幼学校を建てる。明治四年、東京深川の救養会所で救済事業を学び、同十九年には福島救育所を設け、全国に救養所を設置するよう帝国議会に請願する。六四歳で東京市養育院幼童係長になり、その傍ら名士婦人と交わり援助と理解を得る。帰郷後は、産婆研究所・育児会・済生病院と、育児保護と貧民救済のため席あたたまる暇がなかった。

明治三十年（一八九七）四月十九日福島で死亡。六九歳であった。没後その名はますます高く浅草、福島、熱塩、喜多方に銅像が建てられ、今なお敬慕されている。

所在地　北町